

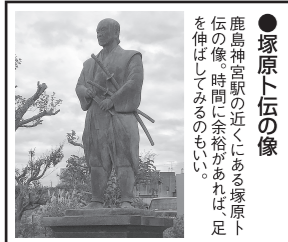
●北浦(南北浦景観地)

水神川と北浦が出会う景観地。夕陽の北浦は美しいと評判で、遠くに筑波山が望める。空気が澄んだ日には富士山も見えるという。

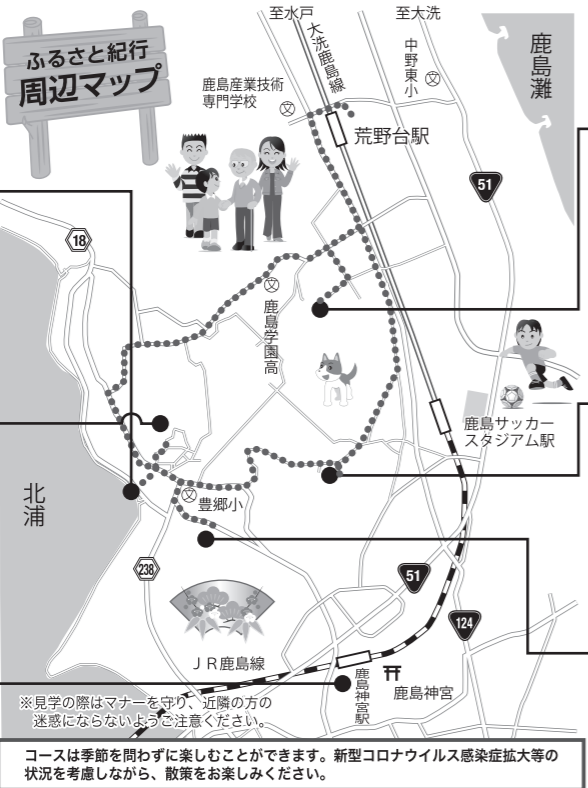


●塚原ト伝の墓

鹿島(現・鹿嶋市)に生まれて全国を巡り、「剣聖」として名を高めた塚原ト伝。晩年は生誕地で過ごし、83歳で亡くなった。



●塚原ト伝の像
鹿島神宮駅の近くにある塚原ト伝の像。時間に余裕があれば、足を伸ばしてみるのもいい。



※見学の際はマナーを守り、近隣の方の迷惑にならないようご注意ください。

コースは季節を問わずに楽しむことができます。新型コロナウイルス感染症拡大等の状況を考慮しながら、散策をお楽しみください。

●沼尾神社

昭和61年に鹿島神宮の摂社として国指定史跡の「鹿島神宮境内附郡家跡」に。北側にあった池の運楫は万能薬だったと言う。



●坂戸神社

沼尾神社と同じく昭和61年に鹿島神宮の摂社として国史跡「鹿島神宮境内附郡家跡」に指定された。



●夫婦塚古墳

夫婦塚古墳のある宮中野古墳群は4世紀末から7世紀はじめにかけての古墳群で、その数は128基。県内最大級の規模を持つ。

Vol.105

鹿島臨海鉄道 大洗鹿島線

荒野台駅

長者ヶ浜潮騒はまなす公園前 鹿島サッカー スタジアム

●今回は1月24日の掲載予定です。 ※イラストはイメージです。



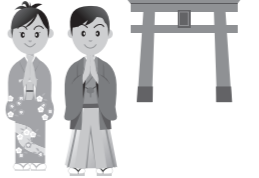
●荒野台駅の外観。駅前には駐車スペースもある。



●駅への出入り口は南側にある



●1面1線のホーム



公園とサッカー場の名を冠する駅に挟まれた、歴史・文化の薫る閑静な駅
今年開業35周年を迎えた鹿島臨海鉄道大洗鹿島線は、水戸駅を起点にし、鹿島サッカースタジアム駅を終点とする。鹿島サッカースタジアム駅は試合開催時のみ停車する臨時駅のため、荒野台駅は通常時の終着駅。しかし、すべての下り列車はJR鹿島線に乗り入れ、鹿島神宮駅まで運行されているため、荒野台駅止まりの列車はない。公園とサッカー場の名を冠した駅に挟まれた荒野台駅が開業したのは、大洗鹿島線が開通した昭和60年3月。駅周辺は住宅地が広がり、雑木林も多い。「荒野」は駅の西側を通る大野街道から鹿島灘までの地域で、国道51号から駅を目指す坂を登っていくため、駅のある場所は荒野地区の高台にあたる。南北朝時代には地名が登場する歴史ある地で、「荒野」という氏名発祥の地とも言われている。

働く人と、世界を走る。

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代) https://www.ibaraki-isuzu.co.jp

●散策コース●

常陸国一宮・鹿島神宮には「三社詣り」という参拝方法がある。「常陸国風土記」では鹿島神宮とともに沼尾神社と坂戸神社が登場し、「香島の天の大神」と記載される。鹿島神宮内に沼尾社と坂戸社の遙拝所があるが、昔の人は3つの神社を巡った。荒野台駅の南西にある沼尾神社には鹿島神宮と縁の深い香取神宮の経津主大神(ふつぬしのおかみ)が祀られている。

学園通りを北浦に向かうと、「鹿島新当流」の開祖・塚原

ト伝の墓がある。足利幕府13代将軍の足利義輝にも指南し、「無手勝流」などさまざまな逸話を持つ「剣聖」の墓には、今も多くの武道家が訪ねる。ト伝への興味が高まれば、鹿島神宮駅の近くにある塚原ト伝の像も見ておこう。北浦の景観を楽しんだ後は宮中野古墳群を訪ねたい。前方後円墳だけでも20基ある県内有数の古墳群で、全長約108mの夫婦塚古墳や帆立貝式の大塚古墳などが有名だ。最後は坂戸神社へ。祭神の天兒屋根命(あめのこやねのみこと)は中臣氏の祖先神。この後に、鹿島神宮を訪ねれば「三社詣り」となり、古くからの鹿島もうでが完遂する。